

平成 26 年度 まちづくり活動助成団体 活動成果報告会

日時 平成 27 年 5 月 9 日(土)
13 時 30 分～14 時 25 分 講演
14 時 35 分～16 時 00 分 活動成果報告会
16 時 05 分～17 時 00 分 メッセージカード交流会

場所 名古屋都市センター 11 階 ホール

【発表団体(発表順)】

- ・陶生町自主防災会
- ・特定非営利活動法人
多文化共生リソースセンター東海
- ・一般社団法人
日本ダイバーシティ推進協会
- ・片平学区連絡協議会
- ・長者町アートアニュアル実行委員会
- ・昭和区の歴史文化を守る会

前年度のまちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」で助成を受けた団体が、活動の状況や成果を発表する報告会を行いました。今回は、前半の部に講演、後半の部に活動成果発表及びメッセージカード交流会を行いました。

■ 講演

都市センターのまちづくり活動助成は、若い人たちのまちづくり活動を促進するため、平成 27 年度から在学者にも対象を広げました。それに関連して、「ボウサイをデザインする」をモットーに活動をしている yamory 代表の岡本ナオト氏をお招きし、「伝統的な業界で若者にアプローチするには？～その事例と手法～」というテーマで話していただきました。

岡本氏は、自身の体験を踏まえて、若者の考え方、感じ方を捉え、若者が魅力的に感じるコンテンツの発信や、デザインを若者向けにするなどの工夫をし、若者を取り込んでいることなどを語りました。



■ 活動成果発表

休憩をはさんで、団体による活動成果発表を行いました。まず始めに、まちづくり活動助成団体の選考を行う「名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会」の委員を紹介しました。

名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会 委員(川中委員は欠席)



名古屋大学大学院
環境学研究科教授
西澤 泰彦 委員



名古屋工業大学大学院
工学研究科准教授
石松 文佳 委員



特定非営利活動法人
こどもNPO理事
田尾 幸子 委員



名古屋市住宅都市局
都市計画部長
宮部 晃 委員

発表

発表は、前方のスクリーンにスライドを映しながら、発表者が活動内容を報告する形式で行いました。発表時間は各団体7分間です。1分前にタイムキーパーがベルを鳴らし、『あと1分です』と書かれた札を掲げます。終了時間になるとタイマーがなり、タイムキーパーが『終了』の札を掲げ、終了します。



1 陶生町自主防災会



「街かどオープンカフェ」や「焼き芋大会」など、町内の各種の親睦交流企画や、「防災対策名簿」「個別支援計画」の改正など、助け合いの仕組みづくりを進めました。

防災の取り組みでは、“訓練のため”ではない防災訓練とし、夜間総合防災訓練や、ハイゼックス炊飯袋を用いた炊き出し訓練などを行いました。

2 特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海



愛知県に暮らす約20万人の外国人の事をもっと知ってもらい、語り合いたいという思いから、企画・運営に参加する実行委員を市民から公募し、「あいち多文化映画祭2014」を開催しました。プレイベントとして国際結婚家庭をテーマにした『HARF』を上映し、ハーフの若者のトークショーを行いました

3 一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会



違う特性をもった人たちを結びつけて、お互いの違いを知って楽しみ、五感を最大限に使ったコミュニケーション方法で社会に向けて表現しています。今回は、夏・

秋・冬の3回、久屋大通公園を散策して音を探し、残したい音にタイトルをつけて発表する「音マップ」づくりワークショップを開催しました。

4 片平学区連絡協議会



「地域のコミュニティを育む花・緑の町」を標榜し、種から花を育てて植える“花いっぱい運動”を行っています。普段の生活のなかで、子どもたちに花や緑へ親しみをもたせ、情操教育をおこなう『花育』というメッセージをECOカフェミーティングで発表、今後も片平学区全世帯に情報発信をしていきます。

5 長者町アートアニュアル実行委員会



「あいちトリエンナーレ2013」で長者町に残された3作品を、会期後に訪れた人にも楽しんでもらうため、作品解説パネルを設置しました。また、長者町に関連する

アート情報を発信するためのホームページ「長者町ARTMAP」を公開し、作品や周辺のギャラリーの情報を掲載しています。

6 昭和区の歴史文化を守る会



失われつつある地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地藏盆祭りを復活させて地域の家族を集めたり、名古屋弁の紙芝居を保育園や小学校、老人ホームなどで上演するなどの地域交流を行いました。また、地元の人も知らなかった「みや道」に石碑を立て、まち歩きのコースに石碑の解説を加えました。

質疑応答

6 団体すべてが発表を終え、質疑応答に移りました。各団体の代表者が壇上に移動し、発表内容に基づいた委員の質問を受けて答えました。

多文化共生リソースセンター東海 の方へ

若者の参加という点でみると、参加者のバランスがとても良く、また、7割の方が初参加ということでした。若い人たちを取り込むという点で、広報で新しい取り組みがあったのでしょうか？



多文化共生リソースセンター東海

映画祭を開催するにあたり、専用のブログとHP、Facebook ページを開設するなど、ウェブ媒体を活用しました。他には、「なやばし夜イチ」という若者が多く参加しているイベントでチラシを配布したり、話をしたりして直接若者にアピールをしました。

長者町アートアニュアル実行委員会 の方へ

助成を3年間継続して受けたことによる利点がありましたか？
また、今後の活動資金を得る具体的なアイデアがあれば、みなさんも知りたいと思いますので、教えてください。



長者町アートアニュアル実行委員会

3年間継続して助成を受けたことで、その先のことを考えるきっかけになりました。今回ウェブサイトを立てることができたので、今後はそれをベースに、広告で収益を得て、もっと長者町の情報を発信していければと考えています。この助成は、他と違ってすぐに資金がもらえるので、とても活動がしやすかったことを感謝しています。

片平学区連絡協議会 の方へ

花いっぱい運動について、花を植える場所の選定について苦勞をされたことがありましたか？



片平学区連絡協議会

活動を始める前に、区役所や緑土木事務所、地域と、まちの美化に関する協定を結び、許可を得て行っています。

昭和区の歴史文化を守る会 の方へ

名古屋弁の紙芝居を上演したとお話しにありましたが、具体的にどのようなものなのか、また、地藏盆祭りとはどういうものなのか教えていただけますか？



昭和区の歴史文化を守る会

紙芝居は、この地区に歴史として伝わっている、名古屋城築城の際に使用した礎石にまつわる物語を描いています。地藏盆祭りは、かつては日本中で行われていたが徐々に失われていき、60年前に途絶えていたものを復活させて開催しました。

陶生町自主防災会 の方へ

「街かどオープンカフェ」に防災の観点を入れたと聞きましたが、それによって人や会話にどのような変化がありましたか？





陶生町自主防災会

防災という観点で始めたけれども、防災について語るというよりは、身近なところに会場を設け、足の悪い人など、いわゆる災害時要援護者の見守り活動に繋がっていると考えています。地域コミュニティが失われていくなかで、考えられるありとあらゆることは全てやろうと活動を始めました。そのなかで防災の会話もできるようにする、ということです。

片平学区連絡協議会 の方へ

当初は孤独死の問題から始めたとなりましたが、花植え活動を通して、外に出たがらない老人の方が出てくるようになったという事例がありますか？



片平学区連絡協議会

最初は孤独死の問題から老人クラブを立ち上げ、当初の会員は150人だったが、現在は195人程に増えており、それだけ交流ができてきているということだろうと考えています。また、今日の内容にはありませんでしたが、たまり場カフェをつくり、週2回活動しています。

日本ダイバーシティ推進協会 の方へ

都市から感覚的な繊細さが失われていくなか、この助成を受けた活動は貴重なデータベースが蓄積されたと思いますが、今後は、どのようにしていくのかアイデアがありますか？



日本ダイバーシティ推進協会

実行委員を立ち上げた当初は、五感全てを切り口にして名古屋のまちをみるというところから始まりましたが、今回はまず音に絞ってワークショップを行いました。そこで型ができたので、今年度は視点を広げていき、新たな感覚を楽しく味わってもらえるようなイベントなどをやりたいと考えています。

陶生町自主防災会 の方へ

夜間総合防災訓練について聞きたいのですが、夜間にやったことで明らかになったことや、想定外だったことなどの失敗談はありますか？



陶生町自主防災会

10月にテントを張って行ったことで、実際の寒さを体感することができました。失敗は、安否確認にリボンを使用したのですが、光を当てて反射させないと光らないので、全体の把握が難しいことがわかりました。

日本ダイバーシティ推進協会 の方へ

社会に向けて表現する場づくりをするとありますが、今回はその前段階の、音を拾ってまちを認識するという状態だと思うのですが、今後はどういうステップを踏んでいくのか構想はありますか？また、「五感」について、「味覚」でまちをみることは難しいと思うのですが、五感でまちをみる目安というのはありますか？



日本ダイバーシティ推進協会

助成金でやるのか自主財源でやるのかは検討中ですが、今年は11月にイベントを企画しており、そこで1年間をまとめたデータベースや表現方法を発表したいと思っています。「五感」でまちをみることについては、単にお店に行って食べたものの味と、ワークショップなどで同じ時間を過ごしたあとに食べたものには違いがあると思いますので、プロセスという点が味わいや味覚はデザインできるのではないかと感じました。

委員長講評

すべての発表を通して、前年度委員長の西澤委員より講評をいただきました。



6点お話しします。

まず1つ目、前半の yamory 代表の岡本さんの講演や、今日の報告の中にもありましたが、今までに蓄積されてきたもの、既存のものの上に新しいことを積み重ねていけると、新しいことはうまくいくということです。防災は典型的な例です。日本は地震が多く、もし過去に何も対策をしていなければ、とっくに皆さんはいなくなっているはずですが、教訓を活かす努力をしてきた結果、現在の状況があります。そういった努力を認識した上で新しいことを上乗せしていくのが、基本ということです。既存のものの悪いところばかり目を向けて改善するのではなく、良いところもきちんと理解し、評価するということが、新しいことをおこなうには必要です。

2つ目は、素朴に考えることの良さです。五感はおそらく、人間だけではなく動物は皆持っていると思いますが、五感を大事にするという素朴な発想で物事を考える重要性を認識しました。

3つ目、イベントなどで、「講師の話が面白かった」「映画の内容が良かった」というだけではなく、そこから何を得たかを考え、冷静に書き留めるなどをして、蓄積をつくるのが大切です。時間が過ぎると忘れてしまうので、ぜひおこなってほしいと思います。

4つ目、皆さんの積極的な活動で、評価できるものには委員会として助成したいと思いますが、助成金には限りがあります。一方で、人間の力にも限りがあります。活動は、やれることをやろうという発想で取り組んでほしいと思います。お金がない時はないなりに、ある時は十分に準備をして活動をする、やりたい気持ちがあっても資金がない時は、やりたいことの一部を減らす、ということでもいいと思います。

5つ目、岡本さんの講演で、若い方と年配の方の交流は、若い方は知識の「知」、年配の方は地域の「地」で集まっているという話がありましたが、これは相反するものではなくて、知識は当然奥深いものがありますが、実は地域も奥深いものなのです。ですから、ぜひ知識の「知」と地域の「地」の奥深さをつなげる工夫をしていただけると、年代を問わず交流できるのではないかと思います。

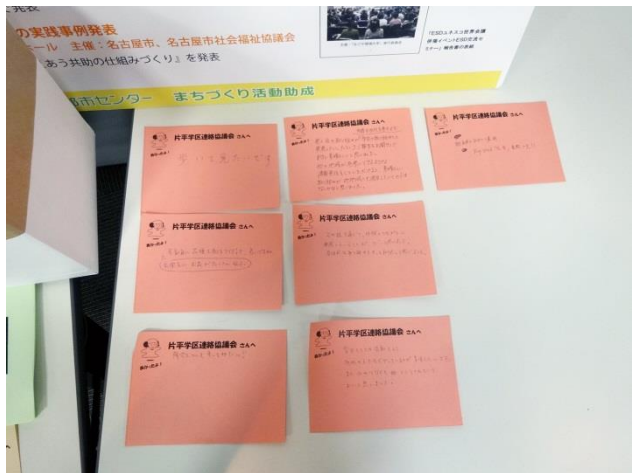
6つ目は、やはり、夢があるから活動ができるというのが基本ではないかと思います。思いつきでいいので、大きな夢を持った活動をしてほしいと思います。おおきなことを言えば、この活動から、ノーベル平和賞がうまれるということもあるかもしれません。それを目標にするとおかしなことになってしまいがちですが、大きな夢を持って活動していれば、結果として皆さんの活動が将来、ノーベル平和賞にノミネートされるかもしれません。そんなところまでいくことを、委員長として期待しています。

■ メッセージカード交流会

再び休憩をはさんで、メッセージカードを使った交流会を行いました。

参加者には事前に受付でカードを配布し、団体報告の感想や応援メッセージを書いて、各団体のパネル前に設置した箱に入れてもらいます。6団体全てに、発表内容への感想や疑問、今後の活動に対する期待などに関する熱心なコメントが寄せられました。

また、団体の方に活動について直接尋ねたり、参加者同士で体験を語りあったりなど、自由な交流の場となりました。



■ 閉会

17時にこの日の全てのプログラムを終了し、閉会しました。